

F D 通信

2024年3月 第2号



特集：2023年度FD研修会

第1回FD研修会 - P 2 -

到達目標

- 様々な自己研鑽に資する動画の中から自分が興味のある動画を視聴することで、自身の教授法について振り返ることができる。
- 自身の教授法についての課題を把握し改善のための方法を考えることができる。

第2回FD研修会 - P 4 -

到達目標

- 講義法のデザインを改善するヒントを見出すことができる。
- 自身の授業をより良くするために、他の参加者と講義法に関して情報交換をすることができる。

ご挨拶

教育開発センター長 橋本 優花里

昨年度、FD 通信の挨拶を執筆してからもう1年が経ちました。春の訪れを感じる野山の変化になごみつつも、日々の流れの速さをあらためて感じているところです。

さて、今年度の全学FDでは、昨年度に好評であった自己研鑽FD研修会と対面形式でのFD研修会の2回を実施しました。自己研鑽FDでは、先生方のご興味に合わせて動画の視聴や研修会を行っていただきました。提供内容につきましては新たに取り入れたものもありましたが、先生方のニーズに合致していたでしょうか。今後もお提供する内容については随時更新をしてまいりたいと考えておりますので、ご提案やご意見、お気づきのことがありましたら教育開発センターまでお寄せください。

対面による第2回FD研修会では、我々教員の仕事の根幹となる「講義」についてその改善や伸展を図るべく、「講義法」について学びました。後述の報告にもありますように、「教員が講義で伝えていること」が「学生が理解していること」になっているかということは非常にわかりにくいことですが、講義をする上では大変重要な視点です。

「学習者検証の原理(原則)」という言葉をお聞きになったことはありますでしょうか。これは、教育の効果はいかに教えたかではなく、学習者がいかに学んだか(理解したか)によって検証されるべきとする考え方です。すなわち、いくら熱意をもって説明しても、あるいは、学生のためを思って授業を展開しても、学生が学習(学修)できていなかったら、その教えには効果がなかったということになります。我々教員は、伝えたつもり、教えたつもりにならず、学生が学ぶことができているか、理解しているかどうかを常に把握しなければなりません。

「いくらあなたが教えても、相手が分かっていなかったら、それはあなたの教え方に問題があるのです。学生の努力や動機付けに原因を転嫁してはいけません」、「いったん学生を引き受けたからには、最後まで責任を持って学生を育て、社会に出しなさい」。教員になりたての頃にこのように恩師に言われました。「一生懸命教えている」にもかかわらず学生が理解していない素振りを見せると、ついつい学生の努力不足や学びへの姿勢の不十分さを責めてしまいそうになります。しかし、そのような時こそ、自身の教育を振り返るチャンスだと思い、より効果的な方法を模索するように心がけています。

教育開発センターでは、次年度も本学の教育力向上のために努めてまいります。今年度同様、教職員皆様のご引き続きのご協力を心からお願い申し上げます。

2023 年度第 1 回 FD 研修会

「自己研鑽 FD」

教育開発センター委員 田中 進 看護栄養学部 栄養健康学科

2023 年度第 1 回 FD 研修会を本学の更なる「大学教育の質の保証・向上」を目指し「本学の教育上の工夫」をメインテーマに掲げ、開催した。本年度も昨年度同様、自身で興味のある内容を探し選択する開催方式とし、教育開発センターからはグーグルクラスルームにて、動画視聴可能な各種研修会等の授業情報を提供した。最低 1 個以上の動画視聴を設定し、それによる到達目標①様々な自己研鑽に資する動画の中から自分が興味のある動画を視聴することによる自身の教授法についての振り返り、と到達目標②自身の教授法についての課題の把握と改善のための方法を考えること、を行っていただいた。

昨年度のオンデマンド動画視聴形式の「自己研鑽 FD」が皆様方から高く評価されたことを受けての本年度の引き続きの開催となった。昨年度の教材の中でまだご覧になっていない動画も多く見受けられたため、昨年度の動画はそのまま継続しつつ、教育開発センターとして、自己研鑽用の教材に関する情報のアップデート（リンク先の確認や、新たな教材の追加）といった更なるブラッシュアップを行った。その結果、開催時期を後ろ倒しになってしまったが、期間が延びたことで、教員側は好意的に受けた止めた方が多く、来年度は年度の初めから公開し、随時アップデートする形でも良いようにも感じた。

昨今の教育環境の状況を鑑み、昨年度の動画（【1】東北大学高度教養教育・学生支援機構より 16 件、【2】愛媛大学教育企画室より 45 件、【3】文部科学省より 11 件、【4】公立大学教職員研修システムより 36 件）に加えて、さらに【4】公立大学教職員研修システムよりの動画の 9 件の追加、【5】教育開発 DX シンポジウムアーカイブズより生成 AI に関する動画 10 件、ならびに

【6】大阪大学 全学教育推進機構 教育学習支援部 12 件の動画の許可を取り、グーグルクラスルームにて公開することで、さらなる充実を図った。その際、昨年度同様、ご自身のタイミングで視聴できるよう動画時間も併せて公開した。

結果、123 件の回答が得られた。多くの先生方がご自身の興味のある分野や足りない部分を補う意味での動画視聴を行っており、シラバスの役割の再認識（16 件）、ChatGPT に関する動画視聴（9 件）、また教育のみならず科研費採択への一助として使われていた。到達目標①に関して、「ほぼ達成できた」53.7%、「どちらかといえば達成できた」41.5%と、ほぼ達成されている。どちらとも言えないと答えた方々の中には「視聴したものの求めていたものでは無かった」

「一般論でありご自身の教育には還元できない」といった厳しい意見もあった。到達目標②に関して、「ほぼ達成できた」49.6%、「どちらかといえば達成できた」41.5%と、到達目標①に比べて、「どちらとも言えない」と答えた方が増えており、改善までは中々難しいと感じ

る方もおり、ご自身の教育法を見直す良い機会にもなっていると感じた。また、学生の学力、積極性、理解するスピード等の違いによる教育の難しさを今後の課題として挙げてられる先生方も多く居られた。

その他、自由意見として、「一部のコンテンツの古さ」「インターンシップ関連の充実」「ハラスメント関連の充実」等、挙げられている方がいると共に、

「自由選択形式の継続」「FD 期間後の視聴」「通年開催」の要望といった好意的なご意見も多くみられ、今後もこの形式での FD 開催の継続、動画のアップデートの必要性和通年の開催も考えていく必要があると感じた。一方で、「FD 研修会の企画・運営には多大な労力と時間を要すると思われ、ご担当の先生方の負担を減らすことができるように今後も改善していきましょう。」といったありがたい意見もあり、今後、教育開発センターのみならず、全学的に、教育開発をご専門とされている先生などからの動画提供などを行っていただきながら、動画やコンテンツの充実をはかっていければよいと感じた。

到達目標に対する事後評価

【到達目標 1】

様々な自己研鑽に資する動画の中から自分が興味のある動画を視聴することで、自身の教授法について振り返ることができる。

123 件の回答



【到達目標 2】

自身の教授法についての課題を把握し改善のための方法を考えることができる。

123 件の回答



2023 年度第 2 回 FD 研修会

「講義法」

教育開発センター委員 吉光 正絵

国際社会学部 国際社会学科

2023 年度第 2 回 FD 研修会は、改めて講義法について学ぶ機会としました。そのため、京都外国語大学共通教育機構から根岸千悠講師をお招きし、「講義法」について講演及びグループワークを行いました。シーボルト校をメイン会場とし佐世保校とは ZOOM によってつなぐことにより両会場間で円滑にコミュニケーションをとり実施することができました。

講師の根岸先生から、研修会の目標として、参加者同士のディスカッションやリフレクションを通して、より良い講義法を模索することが提示されました。続いて「講義法の特徴が説明されました。講義法は一度に知識を伝達できるため、多くの学習者に対して授業をおこなう場合は効率的」であるものの、「教員が講義で伝えていること」が「学生が理解していること」になっているか把握し辛い点が特徴です。その特徴を踏まえた上で、講義を成功させるために効果的な方法として「注意を喚起する方法」、「理解を深める方法」、「記憶を強化する方法」、「講義のデザイン」の 4 点に関する説明とグループワークが行われました。事後アンケートの結果の概要を以下に示します。

【到達目標 1】「講義法のデザインを改善するヒントを見出すことができる」については、回答者 143 名中 84 人が“ほぼ達成できた”（58.7%）と回答、53 人が“どちらかといえば達成できた”（37.1%）と回答しており概ね達成できていました。意見・感想には「体系的かつ理論的に講義法を学べてとても有意義でした」「これまで実際に活用してきた考え方や手法を再度、科学的に考える機会となりました」「今日からでも使える技法が満載で、とても勉強になりました」等がありました。ここから体系的・科学的な講義手法の理解や実践的な技法の習得が達成されていたと考えられます。

【到達目標 2】「自身の授業をより良くするために、他の参加者と講義法に関して情報交換をすることができる」については、回答者 143 名中 90 人が“ほぼ達成できた”（62.9%）と回答、34 人が“どちらかといえば達成できた”（23.8%）と回答しており概ね達成できていました。意見・感想には、「普段接することが少ない他学科の先生方と対面で気づきや意見を交わす良い機会になりました」「分野が異なる先生や若い先生と意見交換できたのが有意義であった」「対面でしたので、話はずみしました」等がありました。久しぶりの対面開催となった今回の研修会での所属を越えた少人数でのグループワークが学習目標達成に非常に良い効果をもたらしたのではないのでしょうか。

「今回の FD 研修会について、ご自身にどのような学びがあったと考えますか」の質問については、「講義法のデザインを改善すること」や「授業計画を立てる参考になった」等、学びを自身の今後の講義に活用したいといった前向きな意見が多くみられました。

末筆ながら、この度の FD が、本学教職員の教育力の充実と、学生の学習成果向上につながっていくことを願っています。



▲シーボルト校会場



▲佐世保校会場

到達目標に対する事後評価

【到達目標 1】

講義法のデザインを改善するヒントを見出すことができる。

143 件の回答



【到達目標 2】

自身の授業をより良くするために、他の参加者と講義法に関して情報交換をすることができる。

143 件の回答



2023年度 教育開発センターメンバー

センター長	橋本 優花里	地域創造学部 教授
副センター長	大澤 裕次	経営学部 教授
	柳田 多聞	国際社会学部 准教授
センター員	大田 謙一郎	経営学部 准教授
	大久保 文博	経営学部 講師
	前田 竜孝	地域創造学部 講師
	芳賀 普隆	地域創造学部 准教授
	吉光 正絵	国際社会学部 教授
	藤沢 望	情報システム学部 講師
	齋藤 正也	情報システム学部 准教授
	田中 進	看護栄養学部 教授
	立石 憲彦	看護栄養学部 教授
		前田 士
	田口 利通	シーボルト校学生支援課長



編集後記

本年度の通信は、全2回のFD研修会の特集としてお届けしました。本通信で多くの情報が共有され、今後のFD活動がより充実したものになることを願います。（編集担当：両校事務局）

長崎県立大学 FD 通信 第2号（発行日 2024年3月29日）

※FD 通信へのご意見ご感想をお待ちしております。

教育開発センター：edu@sun.ac.jp